

(プロローグ)

『地震・津波・原発事故』～東日本大震災を映像で振り返る～

この映像は「3.11 東日本大震災」の地震・津波のすさまじい被害状況と東京電力福島第一原発事故のもたらした「悲惨」を描いています。

原発の過酷事故を予測した小出裕章さん、万が一にも過酷事故はあり得ないと主張する学者、「原発震災」を警告した地震学者など相対立する有識者の意見を紹介。

また、飯館村で酪農を営んでいた長谷川さんが原発事故によって共同体が崩壊したり、家族が離散したりと未代まで残る被害について語っています。

過酷事故が起これば、被災者は命を危険にさらし、居住地・財産・生活等々何もかも失うということ、11年経ってもフクシマは終わっていないことを訴えるドキュメントです。

～小出裕章さんからのメッセ～

1966年、日本で初の原発「東海原発」が動き始めた。世界でもまだ原発の歴史は浅く、日本でもどこかの電力会社が一社で引き受けることはできなかった。そのため、9電力が合同で、日本原子力発電株式会社（通称、原電）を立ち上げた。

東海原発はガス冷却炉であった。その原電は、次には日本で初めての沸騰水型原子力発電所、敦賀原発を作り、次には、出力100万kWを初めて超えた東海第二原子力発電所を作った。さらに原電は、加圧水型原子力発電所、敦賀2号機も作った。9電力はそれぞれ、沸騰水型か加圧水型かの、どちらかの原発しか持っていないが、原電はガス冷却炉、沸騰水型炉、加圧水型炉のすべてを持つ、世界でも特殊な原発の実験会社である。

東海原発、敦賀原発はすでに廃炉になることが決まっている。敦賀2号機も活断層の上に立っていて、おそらくは運転できない。そうすると原電が動かせる原発は東海第二原発しかない。しかし、その周辺30km圏内には94万人もの人が住んでいる。万一でも事故を起こせば、大量の人が生活を根こそぎ破壊されて故郷を失う。もちろん、事故直後の避難すら困難を極めるだろう。その上、それが動き始めてからすでに43年以上たっている。そんな老朽化した原発を再稼働させる合理的な理由は存在しない。

チケットの申込、お問い合わせは、下記の実行委員にお願いいたします。

植田泰史 (080-1052-5027) 海野徹 (080-1100-2605) 立原正一 (090-8437-6691) 村上達也 (080-5182-8532)
県北・県央地区 青木(090-4021-9346)朝日 (080-5095-8109) 石沢 (090-1216-0962) 阿部(070-5577-2993)
出澤 (090-4070-9206) 海野(080-1149-6830) 大久保 (090-6760-4234) 大名 (090-3961-8578)
荻 (080-5496-6261) 菊池 (090-2150-7984) 小澤 (080-5482-3355) 小峯 (090-4052-8070)
佐藤 (090-5410-1336) 塩谷 (090-3807-2265) 鈴木(090-1776-5123) 曾我 (0299-45-6015)
玉造 (0120-303-1255) 塚原 (080-1012-0023) 寺門(080-5879-1491) 花島 (080-6810-3955)
藤田 (080-1123-2175) 前川 (090-9804-6217) 山内 (090-1200-1986) 津幡 (090-4134-5414)
齊藤 (090-2748-3565) 浅香 (080-6795-2844) 徳田 (090-1500-3496) 永盛 (080-1366-6160)
花山 (090-4734-0294)
県南・県東地区 小川 (090-5548-3078) 海野 (090-1548-5294) 野口 (090-8580-1288) 木本 (090-6793-2059)
佐藤 (080-2255-3876) 木村い(090-9821-0434) 木村み (090-4426-0035)
県西地区 鈴木 (090-2303-1545) その他 (22/3/1 現在)